LRTの導入は

問　新しい交通システムとして、LRT（次世代型路面電車システム）の導入に対する考えは。

答　LRTは公共交通として、環境負荷軽減のほか、将来を展望した快適な都市空間の形成といった観点からも有用な交通システムであると認識している。しかしながら、導入に当たり多大な初期投資がかかることや、現在の沼津駅周辺の南北交通が困難である状況下ではその効果が限られるなど、多くの課題があると考えている。LRTについては、これまで、県東部地域の都市デザインを研究する経済人からの広域的なまちづくり構想の中で、その整備が提言されている。また、先日、開催されたシンポジウムにおいて、沼津商工会議所会頭が述べた沼津駅・沼津港間におけるLRTの整備についての考えも、高次都市機能の充実のために提案されたものと理解している。本市としては、このような提案を参考にしつつ、既存の公共交通機関との効果的な連携のもと、新たな交流を生み出す魅力ある新しい交通システムについて長期的な視野に立ち、調査・研究を進めていく。

隣接校選択制の現状は

問　隣接校選択制を利用することで、地元の地域活動に参加する児童生徒が少なくなっている状況が課題であると考えるが、①隣接校へ通学する児童生徒数とその主な理由は。②隣接校への通学を認める際の条件及び指導内容は。③本制度に対する認識は。

答　①平成二十三年度の小中学校の新入学者において、本制度を利用し、隣接校へ通学する児童生徒数は、児童生徒総数三千四百八十一人のうち、三百二十四人であり、利用者は、年々増加傾向にある。その主な理由としては、通学距離及び安全性が約半数、友人関係が二割程度となっている。②隣接校への通学を認める際には、希望する学校の教室数が受け入れ可能な範囲であることを条件とし、すべての申請者に対して、居住する地域での子供会の加入を初め、防災訓練、奉仕活動、各種行事等に積極的に参加するよう指導している。③本制度の主たる目的は、通学距離の解消及び安全性の確保である。さらには、選択した学校への愛校心及び責任感など、保護者及び児童生徒の意識の変化が期待できるとともに、各学校においては、選ばれる立場となることで、活性化が図られ、魅力ある学校づくりが進むという教育効果が期待できる。本制度については、児童生徒が安全な環境のもとで学校生活を送るために有効な制度であると認識しており、今後とも、各学校や地域での利用の実態を慎重に見守っていきたいと考えている。

▲魅力ある学校づくりを

補正予算

〈一般会計〉

今回の補正予算は、五千百五十三万四千円を追加したもので、その結果、予算総額は七百三十一億五千六百四十八万九千円となりました。

追加したものは、津波対策事業費三千万円、中小企業支援利子補給事業費千六百七十万円、地域コミュニティ事業費二百五十万円、介護基盤緊急整備等特別対策事業費百七十五万円、社会福祉基金積立金五十八万四千円です。

財源としては、それぞれの特定財源のほか、一般財源として繰越金をもって充てるものです。

▲地域コミュニティ事業費を活用し、設置された自治会の屋外掲示板